

運転者を助ける、交通情報提供技術

◆プッシュ型の地域交通情報通知の社会実験が行われている

国土交通省高田河川国道事務所は、2017年12月から18年3月中旬の間、新潟県の糸魚川市、上越市、妙高市の範囲の北陸自動車道と上信越自動車道、及び、並行する幹線国道で発生した交通障害の情報を、希望者のスマートフォンに専用アプリを通じて提供する、試行サービスを行っている。

▼対象区間



▼通知画面のイメージ (Android版)



出典：国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所 記者発表資料
http://www.hrr.mlit.go.jp/takada/kouhou/kisva/h29/291113_fuyumiti.pdf

降雪や積雪が多い地域では、定時のラジオ交通情報より高頻度な情報提供が望まれるときがある。この高田ふゆみち情報配信社会実験では、対象道路に通行止めや動けない車が出たときに、上右図の画面が自動表示されるプッシュ型の通知がスマートフォンに着信する。更に詳細を知りたい場合は、着信表示内のボタンのワンクリックでアプリが開き、道路情報や現場のカメラ映像がライブで確認できる。いち早く情報を受け取ることで、チェーン携行や経路変更、様子見の待機など、運転者の事情に応じた対応を取ることができ、交通情報提供の新たな方法として注目される。

現在、交通情報を知る手段として、道路毎に複数のホームページが用意されている。全国の高速道情報は、西日本高速道路サービスが運営するiHighwayで公開されており、通行止めや事故発生区間、冬用タイヤ等装着規制区間を知ることができる。こちらでは更に、予め登録した区間の通行止めや規制、渋滞情報のメール配信サービスも提供している。また、日本道路交通情報センターでは、全国の高速道に加え、首都高速や阪神高速などの都市高速道、全国の主要な一般道の情

ハイライト

報が公開される。これらの情報更新は5分間隔で、実際の状況と情報のタイムラグは約10～15分程度ある。この他、全国の一般道の規制情報は、国土交通省のホームページで見ることができる。この情報更新間隔は地域にもよるが、10～60分間隔である。ただ、これらは閲覧情報やメールであるため、自身で都度、情報を見に行く操作が必要となる。

<交通情報を公開しているホームページ>

iHighway (<https://ihighway.jp/pc/index.html>)

日本道路交通情報センター (<http://www.jartic.or.jp/>)

国土交通省のホームページ (<http://www.mlit.go.jp/road/roadinfo/>)

一方、今回の社会実験は、カスタマイズされた特定地域の情報を、適時に、必要とする人に届ける、プッシュ型の情報提供である。サービス期間終了時には、参加者の評価アンケートによる需要や有用性、利便性の検証が行われ、得られたサービス向上に関する意見を機能改善に繋げる予定である。

◆ETC2.0のプッシュ通知の魅力は速報性

ETC2.0は、14年から始まった高速道の利用料金支払システムだが、同時に交通情報をプッシュ通知する機能をもつ。情報提供は、11年にITSスポットサービスとしてスタートし、ETC2.0に引き継がれたものである。

ETC2.0では、高速道に10～15km間隔で設置されたアンテナから発信される道路管制センターの情報を受け、落下物や故障車、事故渋滞などの情報を、右図の様な絵文字と音声を用いて、対応のカーナビから通知する。運転者にいち早く情報が届くため、例えば、進行方向に事故が発生した際には、カーナビのルート見直しより早く「高速道を出よ」と運転者に通知してくれる。

ETC2.0は、災害発生時にも運転支援情報を提供する。例えば、緊急地震速報で震度5以上の場合には、警報通知と共に音声で、ハザードランプ点灯や左側の徐行運転など、運転者が何をすべきかを指示してくれる。これは、運転者が落ち着いて運転操作をする手助けとなる機能である。

【袴家淳雄】



この先渋滞、追突注意。



地震発生、通行止です。
後方を確認しハザードランプをつけ、ゆっくり左側に停車してください。

出典：国土交通省ホームページ

<http://www.mlit.go.jp/road/ITS/i-html/etc2/katuyou.html>